



中里勇太 木彫展「蜃気楼日記」

Yuta Nakazato Exhibition

2019.10.5 sat - 10.19 sat | 11:30 - 19:00

この度、弊廊では、動物の姿をメタファとし人間の本质を描き出す彫刻作品で人気の高い中里勇太の個展を開催いたします。自然に囲まれた静かな環境にアトリエを構える中里は、身の回りで出会う動物や日本固有の生物を注意深く観察し、彫刻制作しています。

インターネットの発達と共に急速に移り変わる現代社会における人間の危うさや儚さを文学や、時に実在の事件などを題材に彫刻を通して見つめ続けています。

作家の「見る」ことや、木と真摯に向き合う姿勢、創造する造形力の高さは、非凡な才能を感じさせます。静止しているはずの彫刻作品の中に深い息衝きを感じ取ることが出来るでしょう。

つまさきたちのこころ | 2018 | 樟 | H58x62x24.5 cm



今回の「作品達」は、その日あったことを綴る日記のように、はたまたぼんやりとした蜃気楼を掴むように存在させた。日常の出来事はコマ送りのフィルムのように間断なく流れ行き、一時停止も巻き戻しもできない。本当は流れ過ぎてしまう1コマ1コマを大切に切り出し、綺麗なまま留めておきたかったのかもしれないのに。

時間と共に薄れ、変化して行く記憶は確かに存在したはずのこと。本当に起きたことも蜃気楼のように遠のいて、確かめようもなく、全く違った像（かたち）にしてしまったのかもしれない。だが、それをやめもせず、気にも留めず、それがきっと自然だと感じたからなのだろう。

中里勇太



徘徊の王子 | 2014 | 櫃 | H31. 5x64x24cm

おくちのなかの乙女 | 2015 | 櫃 | H54x54x22cm



【中里勇太】

1986年に群馬県で生まれ、中学3年生のときにアンドリューワイエスの作品を知り、美術の道へ高校時代に高村光雲の「老猿」に衝撃を受けて彫刻家を志す。

2008年東京藝術大学 彫刻科へ、2011年東京藝術大学 大学院へと進学する。

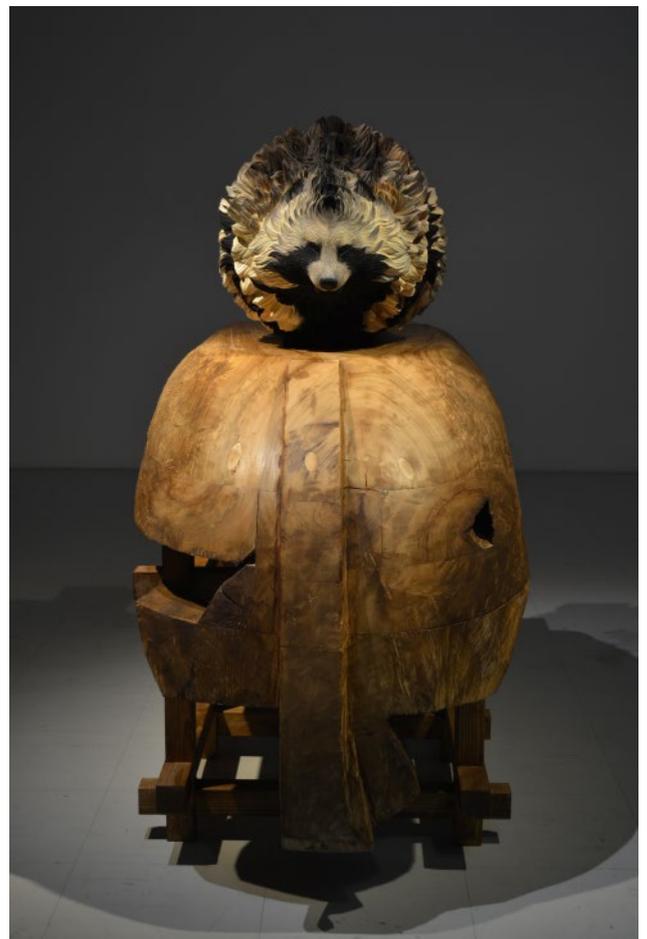
卒業時には、サロン・ド・プランタン賞、平山郁夫賞、三菱地所賞を受賞。

2016年アートフェア東京で個展開催、2017年台湾の三義木彫博物館にて展示に参加、

2018年「THE ドラえもん展」(森アーツセンターギャラリー他)の若手作家に選出される。

現在、「THE ドラえもん展」(7/12 金 - 9/23 月)大阪文化館・天保山)参加中。

他、展示多数。



湖上の悪意 | 2017 | 櫃 | H80x130x65cm

FUMA Contemporary Tokyo | Bunkyo Art
Yuta Nakazato



夜の獣 | 樟 | H120x50x280cm



おとなし | 2017 | 櫃 | H125x46.5x140.5cm